

「……ここは？……確かさっきまで三玖の部屋で勉強を……」

「って三玖!? なんで俺の上に乗って……」

「ごめんね? フータローが欲しくてもう我慢できないの……」

「だから私のこと以外考えられなくなるまで……いっぱい気持ちよくしてあげる♡」

「……なんだ?……三玖の様子がおかしい……」

「それにカラダも動かないし……三玖から目が離せない……」

「見せてあげるね? 新しい私の姿♡……」



「!?!?...その姿は...」

「素敵でしょ?これがフータローを気持ちよくするためのチカラ♡
ほら、おとなしくして?全部搾り取ってあげるから♡...」

しゅーっしゅーっ

「! 待てっ!三玖」

「...だめっ♡待たない♡」



「あん♡あつ♡」

どう？フータロー♡気持ちいい？♡」

「ぐっ……うあ……」

（やばいつ……！気持ちよすぎて何も考えられなくなるっ……！）

「ふっ♡たまらないって顔してる♡」

…私のカラダ…フータローが二番気持ちよく

なれるように変化させてるから当然だよね♡」

「我慢しても無駄だよ♡どう頑張ったって抗えないんだから♡」

素直じゃないフータローにはお仕置き♡…もっと激しく動いてあげるっ♡」



『そろそろ限界？』

…いよいよほらっ♡

全部射精しちゃうっ♡』

『やめっ…うああっ!!』

でっ…射精るっ!!』

『あはっ♡きたあっ♡

フータローの精子っ♡もいと♡

もいと♡はらわす♡なりたい♡』



「…あつ…がつ…」

（気持ちよすぎる…
それにあれだけ射精したのに治まらない…）

「いっぱい射精たね♡」

…でもよかった♡まだ私のナカでガッチガチ♡

…まだイけるよね？フータロー…私はまだ満足してないよ♡」

ちゅるり

どろろ

がくがく

「この後も…これからも…
いっぱい気持ちよくして私の虜にしてあげる♡」

…ずうっと一緒♡…泣き叫んだって絶対に逃がさないから♡…」

がくがく

「……こは？……確かさっきまで三玖の部屋で勉強を……」

つて三玖!?なんで俺の上に乗って……」

「ごめんね?フータローが欲しくてもう我慢できないの……」

だから私のこと以外考えられなくなるまで……いっぱい気持ちよくしてあげる♡」



（……なんだ?……三玖の様子がおかしい……）

それにカラダも動かないし……三玖から目が離せない……）

「見せてあげるね?新しい私の姿♡……」

「…!?…その姿は…」

「素敵でしょ？これがフータローを気持ちよくするためのチカラ♡

ほら、おとなしくして？全部搾り取ってあげるから♡…」

しゅっしゅっしゅっ

「！待てっ！三玖」

「…だめっ♡待たない♡」



「あん♡あつ♡」

どう？フータロー♡気持ちいい？♡」

「ぐっ……うあ……」

（やばいつ……！気持ちよすぎて何も考えられなくなるっ……！）

「ふふっ♡たまらないって顔してる♡」

…私のカラダ…フータローが一番気持ちよく

なれるように変化させてるから当然だよね♡」

「我慢しても無駄だよ♡どう頑張ったって抗えないんだから♡」

素直じゃないフータローにはお仕置き♡…もっと激しく動いてあげるっ♡」



「そろそろ限界？」

「…いいよ？ほらっ♡」

「全部射精しちやえっ♡」

「やめっ…うああっ!!」

「でっ…射精るっ!!」

「あはっ♡きたあっ♡」

「フータローの精子っ♡もっ♡」

「もっ♡いっぱいちょうだいっ♡」

びゅん♡

びゅん♡

びゅん♡

びゅん♡



「…あつ…がつ…」

（気持ちよすぎる…
それにあれだけ射精したのに治まらない…）

「いっぱい射精たね♡」

「でもよかった♡まだ私のナカでガッチガチ♡」

「まだイけるよね？フータロー…私はまだ満足してないよ♡」

「この後も…これからも…」

「いっぱい気持ちよくして私の虜にしてあげる♡」

「ずうっと一緒♡…泣き叫んだって絶対に逃がさないから♡…」

ちゅるり

どろろ

がくがく

がくがく











びゅん♡

びゅん♡

びゅん♡

びゅん♡



ちゅるり

どろろ

がくがく

がくがく









びゅん♡

ぐゅん♡

ぐゅん♡

びゅん♡



ちゅるり

どろろ

がくがく

がくがく



















